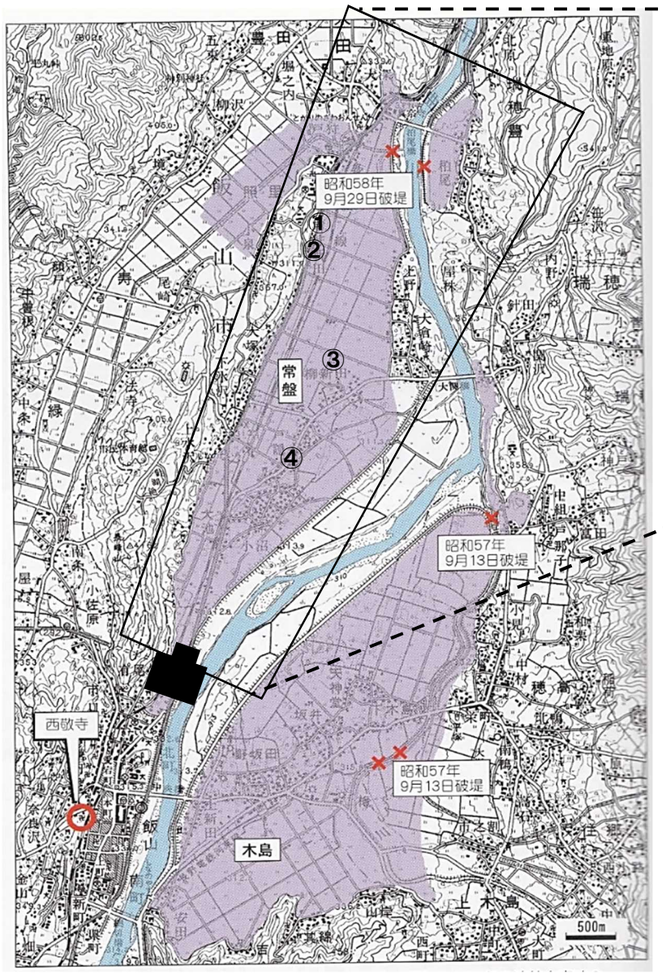
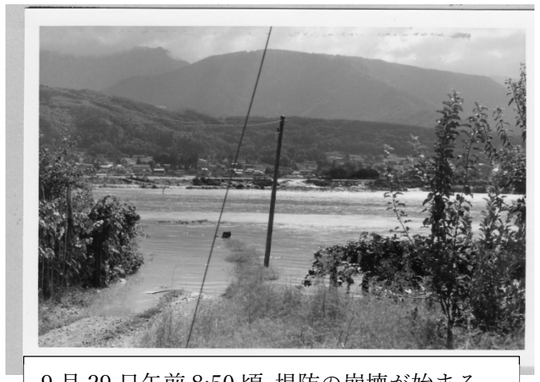
昭和５８年常盤地区（昭和５７年木島地区）の台風による災害

城北中学校　磯村聡美

（出典：『寛保２年の千曲川大洪水「戌の満水」を歩く』）



千曲川の破堤地点の様子



9 月 29 日午前 8:50 頃 堤防の崩壊が始まる。

9 月 29 日午前 8:56 頃　破堤

概要昭和５８年９月２９日、台風十号の影響により千曲川が氾濫・破堤し、家屋や農畜産物に多大な被害を与えた。前年の木島の水害と合わせると、被害額は約１３０億円となった。

インタビュー・T さん（当時・木島平北部小６年）

聞いた話ですが、常盤小学校の校舎の１Ｆが水に浸かり、上の階から大量の稲わらや死んだ動物たちが流れていくのが見えたそうです。私は当時木島平北部小にいて、常盤地区の復興のための募金活動を行いました。

インタビュー・Y さん（当時・第三中2年）

第三中は丘の上にあったため、中学校の体育館が避難所になりました。そのために休校になりましたが、自宅が被災しておらず登校できる生徒は登校し、分担して被災した地域の住宅の泥の掻き出しなどを行いました。

①の戸狩新田の民家の様子。
壁に水の跡が残っている。

②の地点の電柱に残る記録。（2021 年撮影）
上の写真の表示によれば水深 5.1m に達した。

③の養豚場の様子。すべての豚を避難させることはできず、甚大な被害が出た。

④の常盤保育園の様子。

インタビュー・U さん（当時・消防団員）

破堤前日の夜に千曲川の堤防が危ないと消防団に報告があり、土嚢での補修を行いました。暗い中での作業中に、立っていた堤防が歪んでいくのを感じ、皆で急いで退避しました。土嚢での補修の甲斐なく朝方に破堤してしまい、その後はボートに乗って、家屋に取り残された人々（病人や高齢者が多かった）の救助活動にあたりました。活動中に、まだ生きて泳いでいる豚たちがボートにすがりつこうとしてきましたが、１００kg 以上はある豚たちにすがりつかれたら転覆してしまうので、かわいそうでしたがやむを得ず櫂で叩いて引き離しました。

水が引いたあとは、私は常盤保育園の復旧にあたりました。水に浸かって使えなくなったものや中に入り込んだ動物の死骸の運搬、泥の掻き出しなどが主な内容でした。稲刈りシーズン前だったので、田んぼで水に浸かって寝てしまった稲を手で刈る作業もありましたが、それは地域の中高生なども参加して大人数で行いました。水に浸かり、寝てしまった稲はもう食べることはできず、燃やしてしまうしかありませんでした。

昭和 20 年の水害を経験していた人やその子どもが多く、当時の教訓が生きていたので、「千曲川が破堤した」と聞いても、「ここまで水が来るのに何分くらいはかかるはずだ」「あっちに逃げれば安全に逃げられる」などと、避難の際は皆冷静に、的確に対処しました。農畜産物や家屋の損害はひどかったですが、被害のわりに犠牲者はなかったと記憶しています。